

はじめに

我が国の高齢化が急激に進行し、地域社会においても、高齢者を取り巻く環境が大きく変わってきています。本市でも、約10年後の2027(平成39)年には、総人口が45,000人を割り、高齢化率は40%を超えると見込まれています。とりわけ、ひとり暮らしや高齢者のみ世帯、認知症高齢者、障害のある高齢者等が増加することから、今後どのように地域づくりを進めていくかが喫緊の課題となっています。

このため、地域において、元気な高齢者も「我が事」として、支援を必要とする高齢者の支え手になり、「丸ごと」の地域共生社会を担っていく事が大切です。また、在宅生活を送る高齢者の尊厳を確保するだけでなく、介護する家族が犠牲を強いられることがないよう、質・量とも適切な在宅サービスを必要な方に提供することが必要です。

本計画の根幹をなす南砺市型「地域包括ケアシステム」は、「5つのまちづくり規範」を基本理念とし、医療からスタートした取組を背景に、「互助」である地域づくりに重点を置き、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続ける事ができるよう小規模多機能自治の取組とも連携を図っていくものです。

また、2017(平成29)年1月にオープンした南砺市地域包括ケアセンターは、この「地域包括ケアシステム」を総合的に推進するための拠点として整備したものであり、現在、高齢者のみならず、全ての住民を対象に保健、介護、医療及び福祉の各種サービスや支援を一体的に提供しています。

今後、この地域包括ケアセンターが中心となって、市の関係部署のみならず、自治振興会や市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員などの関係団体をはじめ、民間サービス事業者などとの連携体制を構築することで、南砺市全体の地域のマネジメント力の向上に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、本計画の策定にあたり貴重なご提言をいただきました「第7期高齢者保健福祉計画策定委員会」の皆様をはじめ、ニーズ調査や実態調査にご協力いただきました多くの市民の皆様から感謝を申し上げます。

平成30年3月

南砺市長 **田中 幹夫**